

「農学部卒業生の満足度アンケート」
の分析結果報告書

九州大学農学部学務委員会

平成 29 年 12 月

1. アンケートの概要

農学部学務委員会では、平成 19 年度より毎年度、農学部卒業生を対象に、在学時の満足度について無記名のアンケートを行っている。本報告書は、平成 24 年度から平成 28 年度における 5 年間のアンケート結果について、分析を行ったものである。

アンケートに当たっては、2 頁で図示したアンケート票を使用した。アンケート票に示されているとおり、質問項目は「教育カリキュラム」、「教員について」、「学習研究支援・環境」、「進学・就職支援」及び「総合判定」に大きく分類され、卒業生が大学に対して感じた満足度を、様々な視点から分析できるように構成されている。

アンケート結果を分野ごとに集計したものが、次節の図である。図を参照するに当たっては、図の棒グラフ中の数値が、アンケートの各質問項目に対する卒業生の回答率を表すことに留意されたい。また、図の上には、平成 24 年度から平成 28 年度における、学部全体または各分野の卒業生数とアンケート回収率を表記している。なお、「森林機能制御学分野」、「森林機能開発学分野」及び「生物材料機能学分野」の 3 分野については、「地球森林科学コース」として 1 つのカリキュラムで教育を行っていることから、本報告書では、3 分野を集計し、「地球森林科学コース」として分析を行った。

各分野におけるアンケート結果の分析は、学部全体の結果及び前回の結果と比較する形で行った。具体的には、質問項目ごとに、回答番号 3（おおむね有意義であった・おおむね見出せた・おおむね満足・やや当てはまる）及び回答番号 4（大変有意義であった・充分に見出せた・満足・当てはまる）と回答した卒業生の割合について、各分野と学部全体の差（＝各分野の数値－学部全体の数値）を求め、その差を次のように表記した。

+10 ポイント以上 : 極めて高い

+5～+10 ポイント : 高い

-5～+5 ポイント : 同程度

-10～-5 ポイント : 低い

-10 ポイント以下 : 特に低い

※ただし、同程度の範囲内で高低を言う場合は、僅かに高い、僅かに低いとする。

つまり、各分野における満足度が、学部全体及び前回の結果と比較してどの程度高かったのか（低かったのか）を、統一的な評価基準をもって分析した。また、分析結果から明らかになった学部全体及び各分野における今後の課題についても、合わせて記述した。

図 満足度アンケート票

学生(学部)の満足度アンケート(解答はすべて1~4の番号でお答え下さい)

所属する分野に○をつけてください。

1. 農学分野 2. 生物生産環境工学分野 3. 生物生産システム工学分野
4. 農政経済学分野 5. 応用生命化学分野 6. 食糧化学工学分野 7. 森林機能制御学分野
8. 森林機能開発学分野 9. 生物材料機能学分野 10. アニマルサイエンス分野
11. 水産科学分野

1. 教育カリキュラム

- A. 専攻教育科目(80単位分)における講義はどの程度有意義だったと思いますか？
4. 大変有意義であった 3. おおむね有意義であった 2. あまり有意義でなかった
 1. 有意義でなかった
- B. 専攻教育科目における実験・演習はどの程度有意義だったと思いますか？
4. 大変有意義であった 3. おおむね有意義であった 2. あまり有意義でなかった
 1. 有意義でなかった
- C. 専攻教育科目における卒業研究はどの程度有意義だったと思いますか？
4. 大変有意義であった 3. おおむね有意義であった 2. あまり有意義でなかった
 1. 有意義でなかった
- D. 準備された専攻教育科目の科目数や科目の種類にどの程度満足できましたか？
4. 満足 3. おおむね満足 2. やや不満 1. 不満

2. 教員について 下記に挙げた項目はあなたが受けた教育にどの程度あてはまりますか？

(4. 当てはまる 3. やや当てはまる 2. あまり当てはまらない 1. あてはまらない)

- A. 勉学・研究の動機づけをしてくれる授業をする教員に出会った (4 3 2 1)
- B. 学習方法などに対して助言をしてくれる教員に出会った (4 3 2 1)
- C. 情熱をもって授業を行なう教員に出会った (4 3 2 1)
- D. 学生の授業理解度を深めるため多大な努力をする教員に出会った (4 3 2 1)

3. 学習研究支援・環境 下記のA~Dの項目についてどの程度満足していますか？

(4. 満足 3. おおむね満足 2. やや不満 1. 不満)

- A. シラバスの記載内容 (4 3 2 1)
- B. コース、分野の選択に際してのオリエンテーション (4 3 2 1)
- C. 研究室やキャンパスの学習研究施設・設備 (4 3 2 1)
- D. 成績評価方法の開示 (4 3 2 1)
- E. 卒業研究に対する支援 (4 3 2 1)

4. 進学・就職支援

進学や就職に対する大学側の支援状況についてどの程度満足していますか？

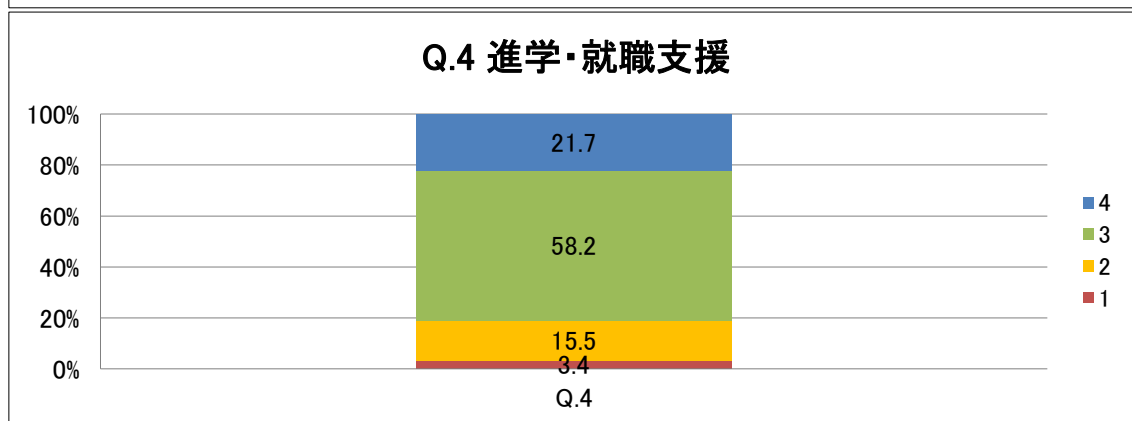
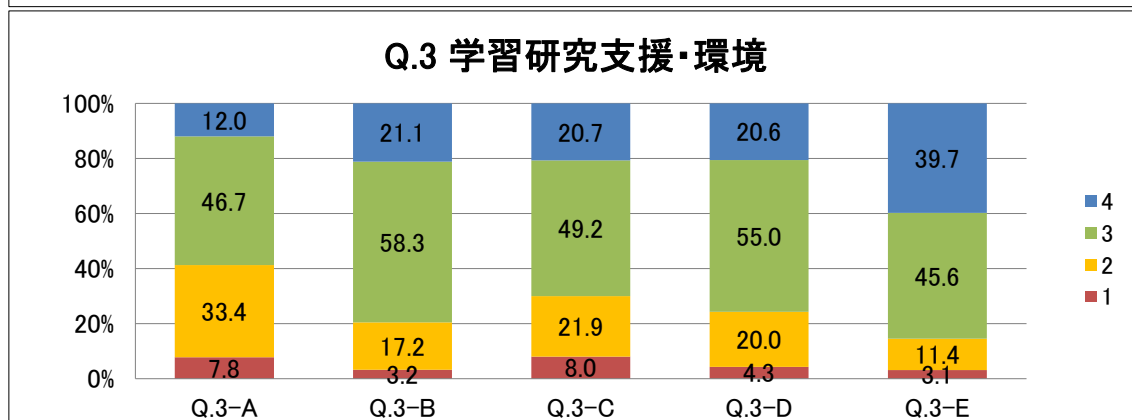
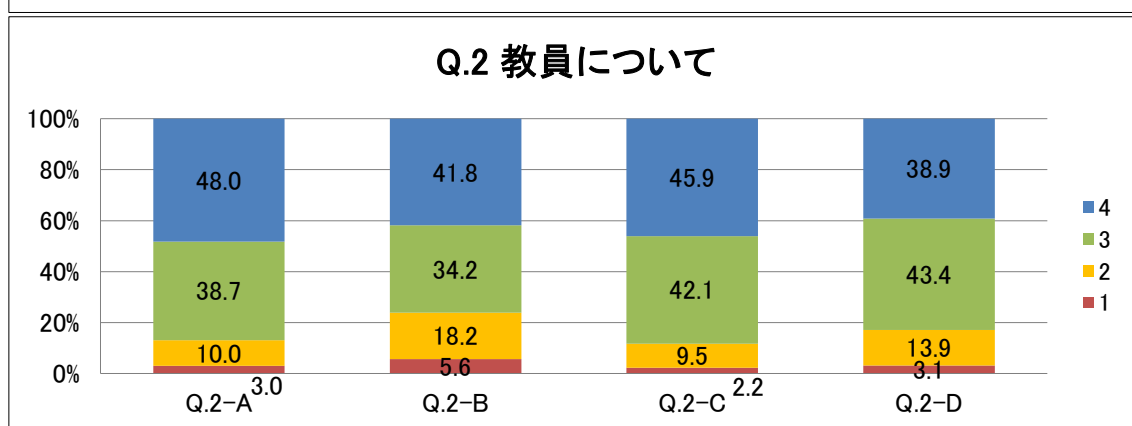
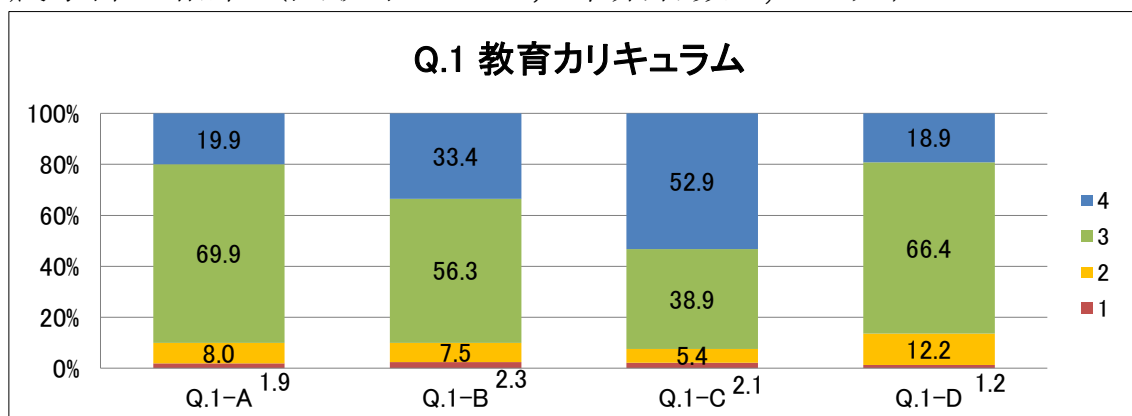
4. 満足 3. おおむね満足 2. やや不満 1. 不満

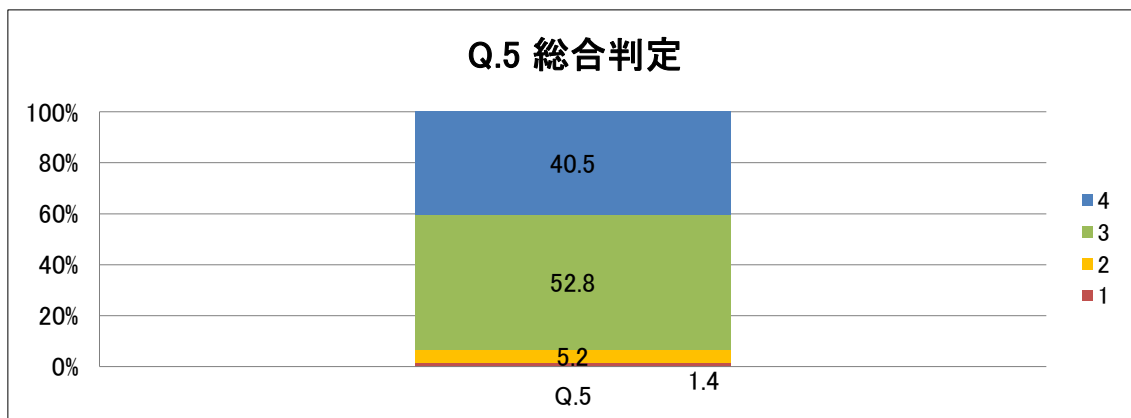
5. 総合判定 総合的に判断して、あなたはこの学部を選択して満足していますか

4. 満足 3. おおむね満足 2. やや不満 1. 不満

自由筆記欄

農学部の結果（回収率 81.3%，卒業生数 1,157 人）





【分析結果】

学部全体では、総合判定で93%の学生が満足している。5年前の前回調査の76%から大幅に満足度が上がった。

80%以上の学生が「教育カリキュラム」に満足しており、講義内容、実験、演習、卒業研究のすべてで高い満足度であった。教員についても、80%以上の学生が「授業で勉学・研究の動機付けをしてくれた教員」「情熱をもって授業を行う教員」「理解度が深まるよう努力してくれた教員」と出会ったと回答している。

学習研究支援・環境に関する項目では、「卒業研究への支援」を始め、70%以上の満足度が得られたが、シラバスについて60%弱の満足度であった。

進学・就職支援についても、ほぼ80%の学生が満足している。

以上、前回の調査と卒業生数はあまり変化がないものの、回収率が51%から81%大幅に上昇し、かつ、満足度も17ポイント上昇した。

【前回の分析結果との比較】

前回の結果と比べて特筆すべきは回収率である。前回の50.7%から81.3%と30.6ポイント上昇した。これは各コース・分野が回収率アップへ向け工夫された結果である。

「教育カリキュラム」のすべての項目で、有意義が上昇、大変有意義に限っても上昇した。「教員との出会いに」では、肯定的な回答が74.5ポイント上昇した。「学習研究支援・環境」では、シラバスの記載内容が1.4ポイント下がったが、他のすべて項目で満足、おおむね満足・満足の回答が85ポイント上昇した。「進学・就職支援」では、満点が9ポイント、おおむね満点が17.4ポイント上昇し、やや不満が14.8ポイント、不満が12.5ポイント減少した。総合判定では、満点が21.4ポイント、おおむね満点が5.8ポイント上昇し、やや不満が13.6ポイント、不満が3.7ポイント減少した。

以上のことから、前回の結果と比較すると、満足度アンケートの回収率、満足度ともに極めて高く、次の5年間もこの高い満足度を維持する必要がある。

【今後の課題】

農学部の教育へ対する満足度は高いが、強いて言えば「学習研究支援・環境」のシラバスに関して「やや不満がある」と「不満がある」の合計が41%に達し、全項目で最も高い。シラバスの充実は図られているが、一層の充実が求められる。

「成績評価方法開示」と「研究施設・設備」に関しての満足度が低く、どちらも30%弱の学生が不満としている。後者については移転後に大幅な改善が期待できるであろうが、前者については、評価基準をシラバスに明記し、授業でも複数回評価基準を説明するなどをしていく必要がある。